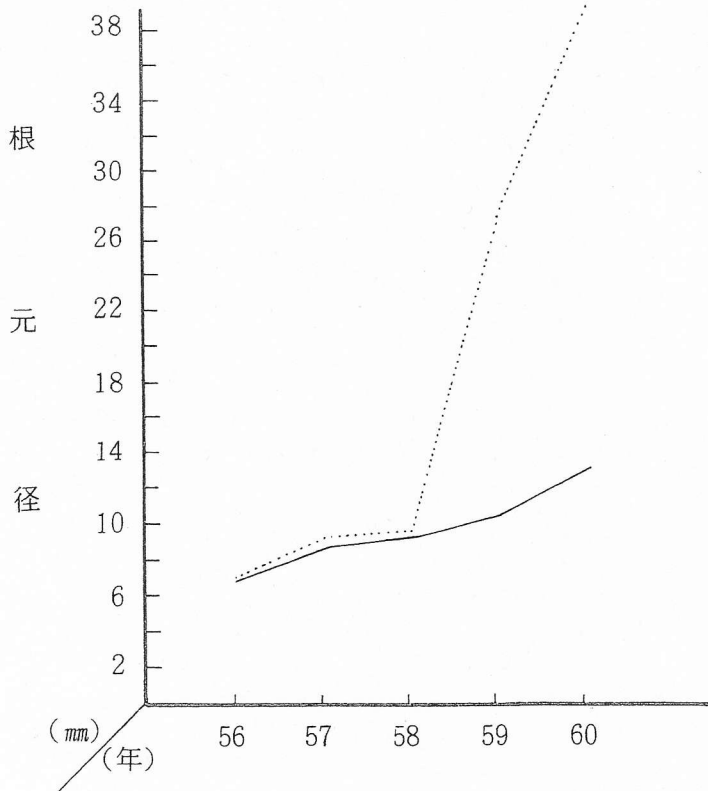
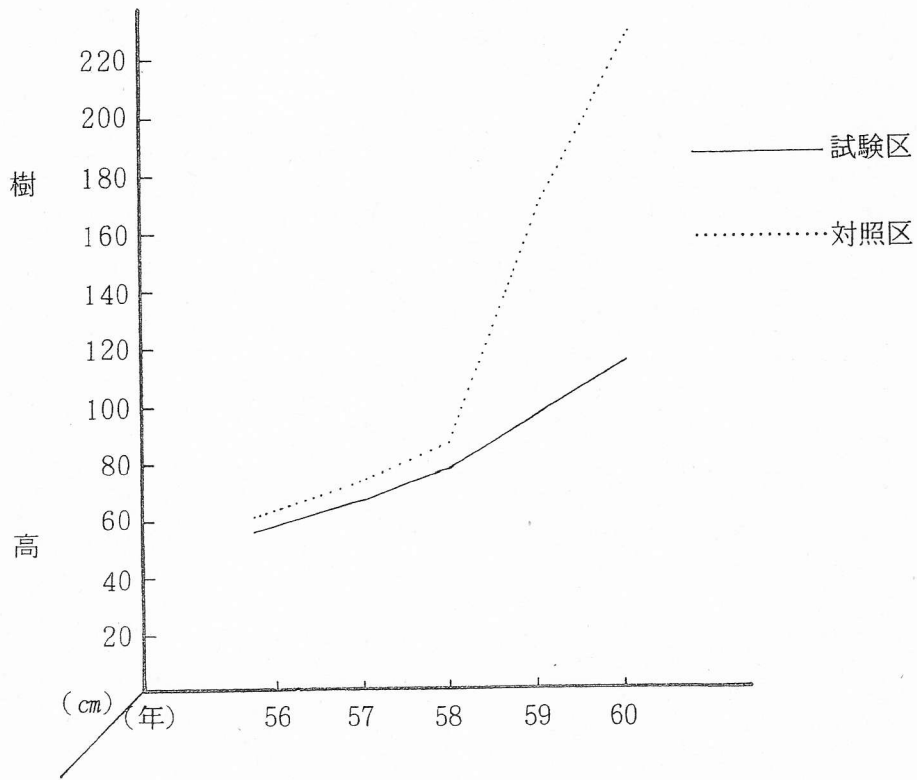


図-1 試験区と対照区の生長量比較表



(3) クロウン別比較

ア. 6生長期の15号クロウンの中から、樹高生長比率の高いものは、日出6号249%、大分7号241%、阿蘇1号218%となっているが、現在樹高は、大分7号130cm、阿蘇8号、中津10号共に123cmとなっており、大分7号が耐陰性としては優位であると考えられるが、各クロウンとも特に優れたものは見受けられなかった。試験区と対照区との関係は表-4のとおりである。

表-4 生長量比較表

種別 調査年度 クロウン別	樹 高 (cm)							
	試 験 区				対 照 区			
	昭56年度	昭60年度	総生長量	生長比率	昭56年度	昭60年度	総生長量	生長比率
阿蘇1号	51	111	60	218%	58	198	140	341%
“ 3号	61	117	56	192	68	214	146	315
“ 8号	59	123	64	208	66	230	164	348
菊池1号	58	117	59	202	68	249	181	366
大分7号	54	130	76	241	62	243	181	392
“ 8号	59	116	57	197	57	218	161	382
玖珠5号	54	105	51	194	56	235	179	420
佐伯5号	52	107	55	206	62	244	182	394
中津10号	58	123	65	212	64	232	168	363
“ 11号	56	111	55	198	60	202	142	337
日出6号	41	102	61	249	56	230	174	411
竹田2号	63	119	56	189	60	220	160	367
“ 3号	51	102	51	200	60	236	176	393
玖珠6号	55	117	62	213	53	215	162	406
国東18号	60	122	62	203	61	254	193	416
計	832	1,722	890	-	911	3,420	2,590	-
平均	56	115	59	205	61	228	167	374

イ、昭和59年度Ry0.76でその後調整伐等も行われていない状態での数値であるので、上層木の疎密度の関係で耐陰性クロウンの順位も変化する可能性があると考えます。

V 考 察

(1) この試験地は、昭和53年度にヒノキ種子15クロウンをまき付し、昭和55年度末に林地に植栽し、生長量調査は昭和56年度から昭和60年度まで5回調査した結果を集約したものである。

根 元 径 (mm)							
試 験 区				対 照 区			
昭56年度	昭60年度	総生長量	生長比率	昭56年度	昭60年度	総生長量	生長比率
6	13	7	217%	7	38	31	543%
7	13	6	186	7	39	32	557
7	13	6	186	7	38	31	543
7	13	6	186	7	42	35	600
6	14	8	233	7	43	36	614
7	13	6	186	7	39	32	557
6	12	6	200	6	41	35	683
6	11	5	183	7	40	33	571
7	14	7	200	8	44	36	550
7	13	6	186	7	38	31	543
7	12	5	171	6	37	31	617
7	12	5	171	7	31	24	443
6	11	5	183	6	37	31	617
6	12	6	200	6	31	25	517
7	13	6	186	8	46	38	575
99	189	90	-	103	584	481	-
7	13	6	186	7	39	32	557

(2) この試験区の場合、ha当り 1,100 本蓄積 $300 \text{ m}^3 \text{ Ry } 0.76$ (昭和59年度調査) という林分密度での生長数値である。Ry 0.76 は、相対照度10%程度と考えられるので、相対照度30%程度の場合では生長順位が変わる可能性もあると考えられる。

試験経過記録

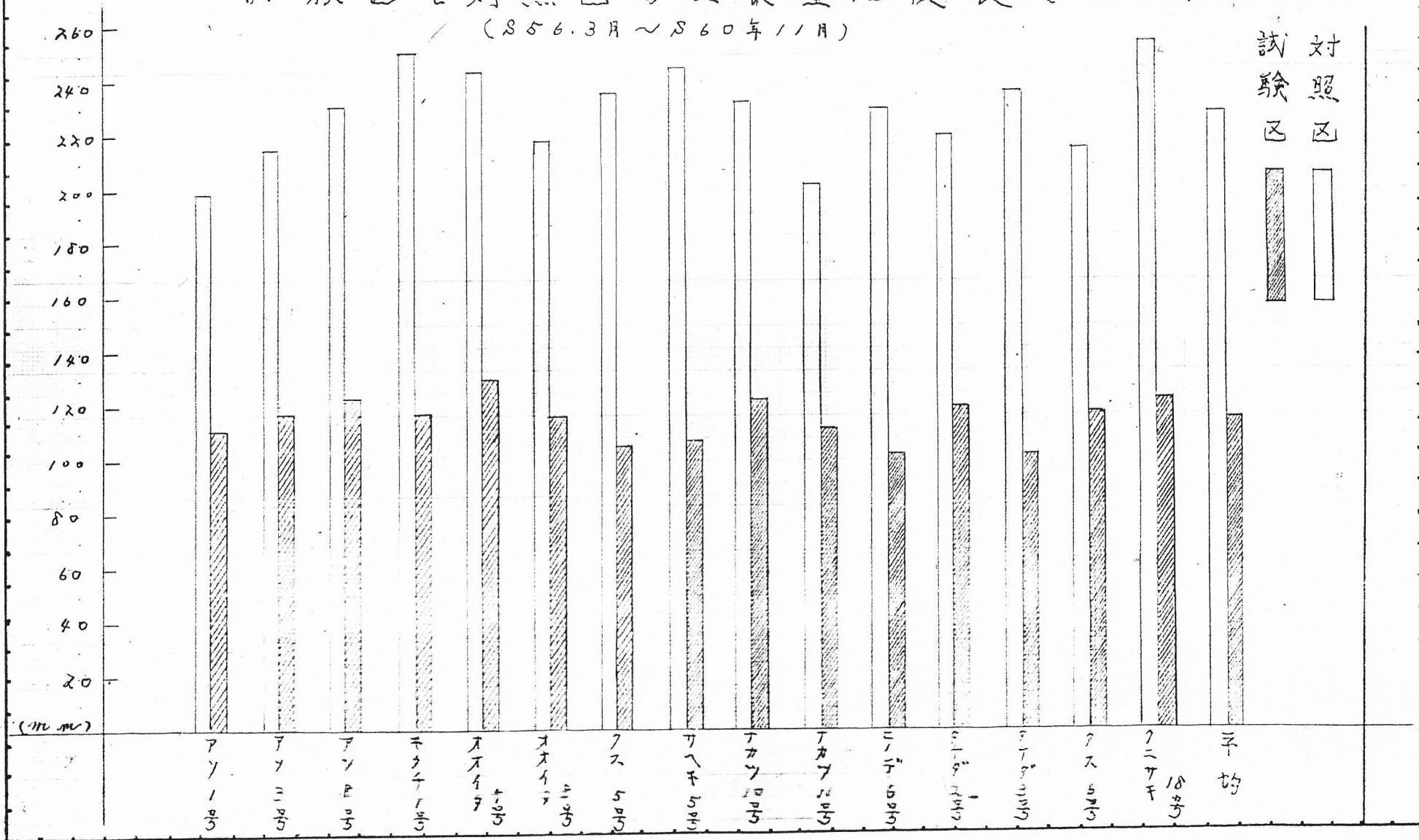
区分指示

菊池 営林署

(様式4) 図-3

試験区と対照区の生長量比較表 (樹高)

(856.3月 ~ 860年11月)



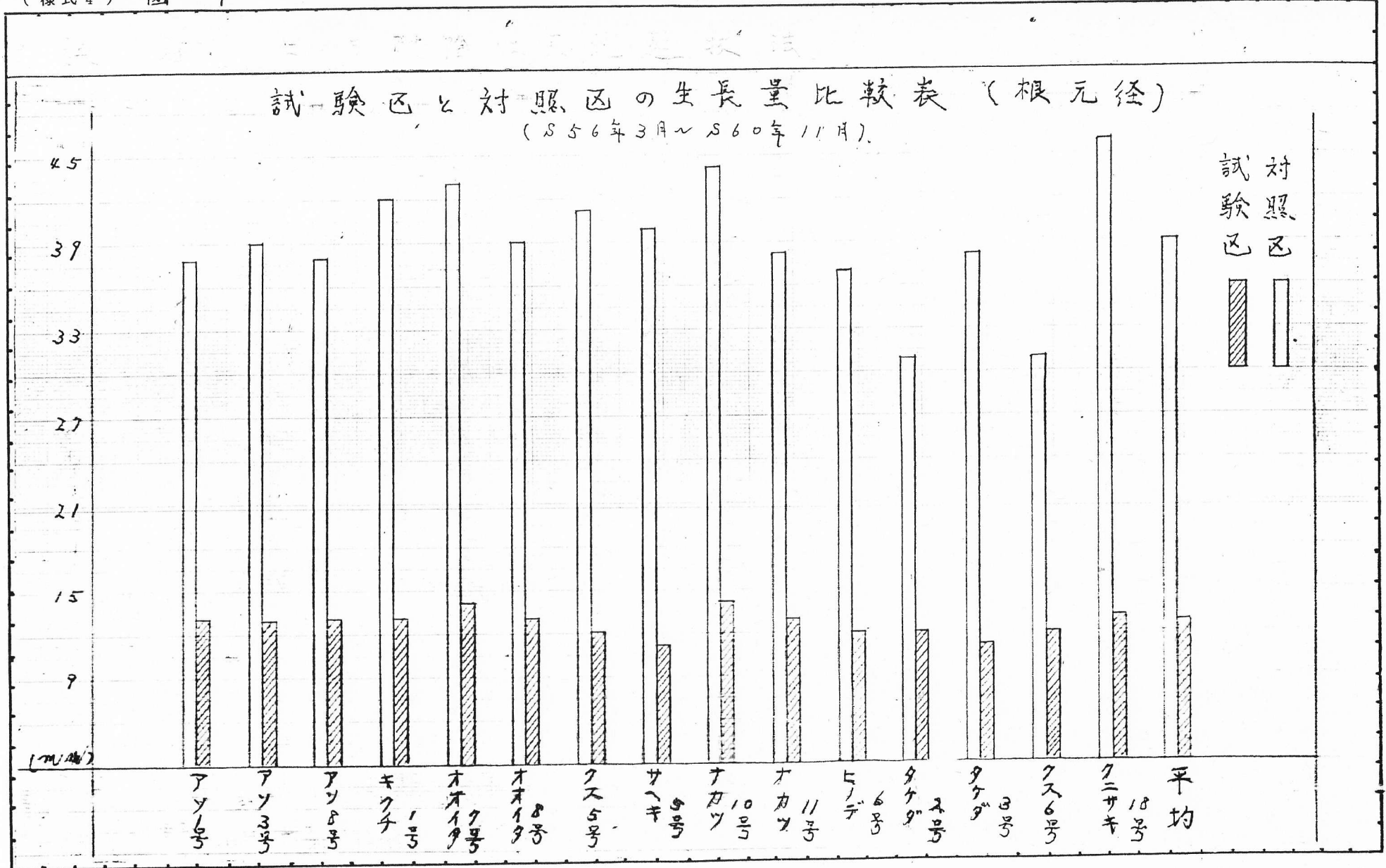
- 記載要領
1. 調査結果及び考察を記入する。
 2. 状況写真は別途整理する。

試験経過記録

区分指示

菊池 営林署

(様式4) 図一十



- 記載要領
- 1 調査結果及び考察を記入する。
 - 2 状況写真は別途整理する。